

第11回  
6/25

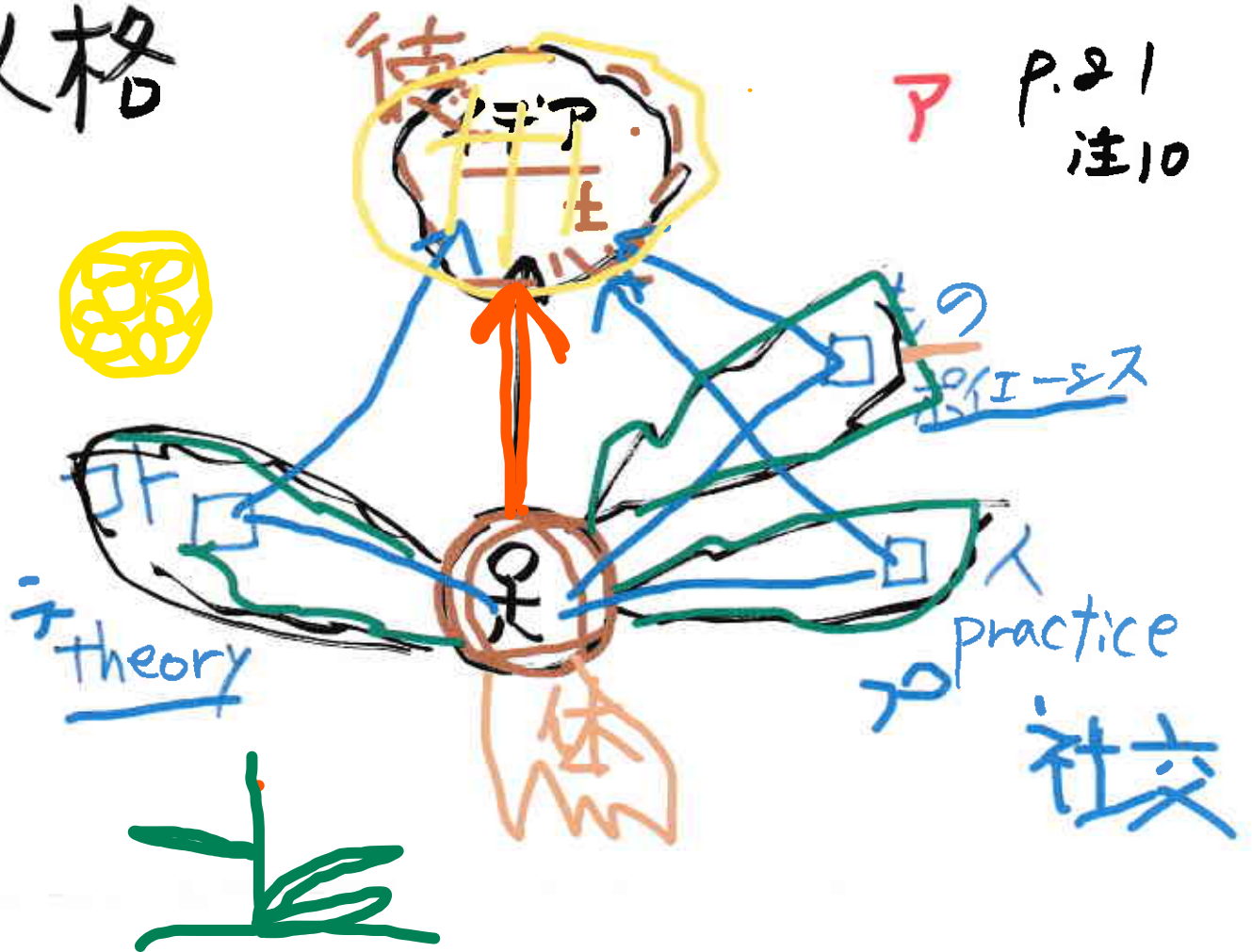
ヘルバルト

ヘルバルト学派

p.80~

人格

ア P.21  
注10



モデル → 使うこと、発見と検証

DE p.236

inquiring > acquiring

生徒・自分

アナロジー、たとえのすじと限界

「カバン」の中には？ (内なる自然、  
事物、人)

ポロイエーシス

(制作  $\leftrightarrow$  生成)

亭+夜

アイデア  $\leftrightarrow$  設計図

## 【人・もの・コト】

生活教育の中でも、特に社会科や総合学習で、「地域にある〈人・もの・コト〉を発見する・かかわる」などとよく使われるフレーズです。

子どもや地域、また自分の教育実践を見ると、忘れがちなことを思い出し、全体像を描くうえで大変有効な視点です。

近代の教育は、知識や学力、つまり〈コト〉に集中する悪い傾向があります。人やものとの切り離されたままでは、〈コト〉の内容自体も単なる記号や徳目に墮していきます。

コペル君は、〈人間分子の関係、網目の法則〉を発見します。粉ミルクが搾乳から赤ちゃんが飲むまでに、オーストラリアから日本まで、多くの人の手を介して届けられているコトが発見されています。人と人の関係を、市民でとどまらず、生産・労働という〈もの〉を介したつながりとしてとらえています。

算数で抽象的なかけ算という〈コト〉を学ぶときでも、それを話し合いという〈人〉の関係に乗せ、また

## 生活教育 キーワード

チョコレートなど生活の中にある〈もの〉で使われることで、〈コト〉の理解は深まります。

哲学的には、アリストテレスのテオリア、プラクシス（社交）、ポイエーシス（制作）に対応し、ペスタロッチだと、〈頭・手・心〉と対応します。ヘルバルトが、ポイエーシスや〈手〉を欠落させて、陶冶と訓育（教科と特別活動）だけで〈教育学〉を組み立ててしまったので、生活教育は、この回復をはかり、〈もの〉を強調して、生産・労働や芸術制作、教室への持ち込みを重視してきました。

東日本の復興再生にあたって、資源という〈もの〉の視点を持っている教育が決定的に重要です。

（研究部・加藤聡一）

### 参考文献

- ①吉野源三郎「君たちはどう生きるか」（岩波文庫）岩波書店、一九八二年（原書一九三五・昭和十年）。特に八十四ページ。
- ②荒木寿友「学校における対話とコミュニティの形成 コールバークのジャスト・コミュニティ実践」三省堂、二〇一三年。特に一四八ページ。

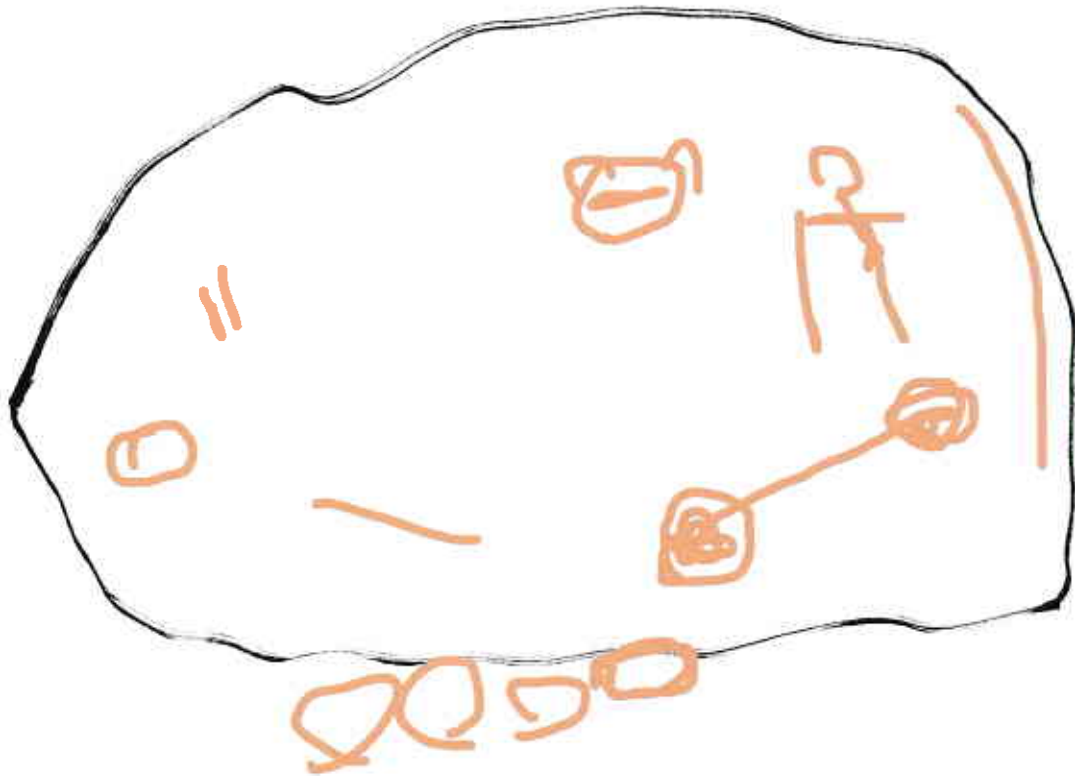
ヘルバルト

教育 

新教育運動 = 反ヘルバルト運動

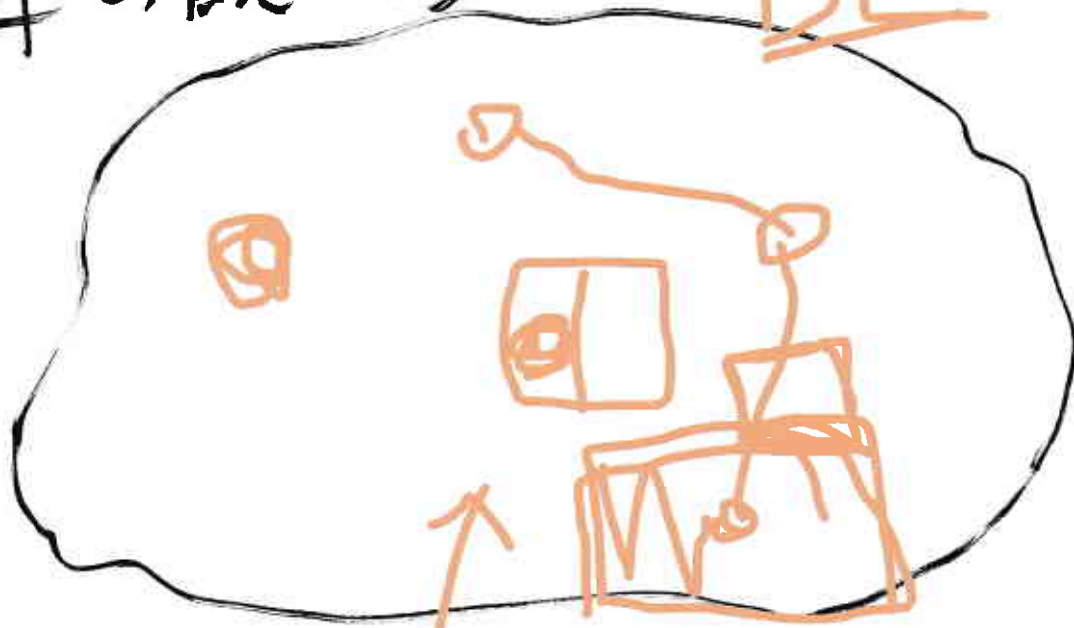
現代哲学 = 反 

# ロビンソン・クルーソー



本の読み方

DE



(要約)



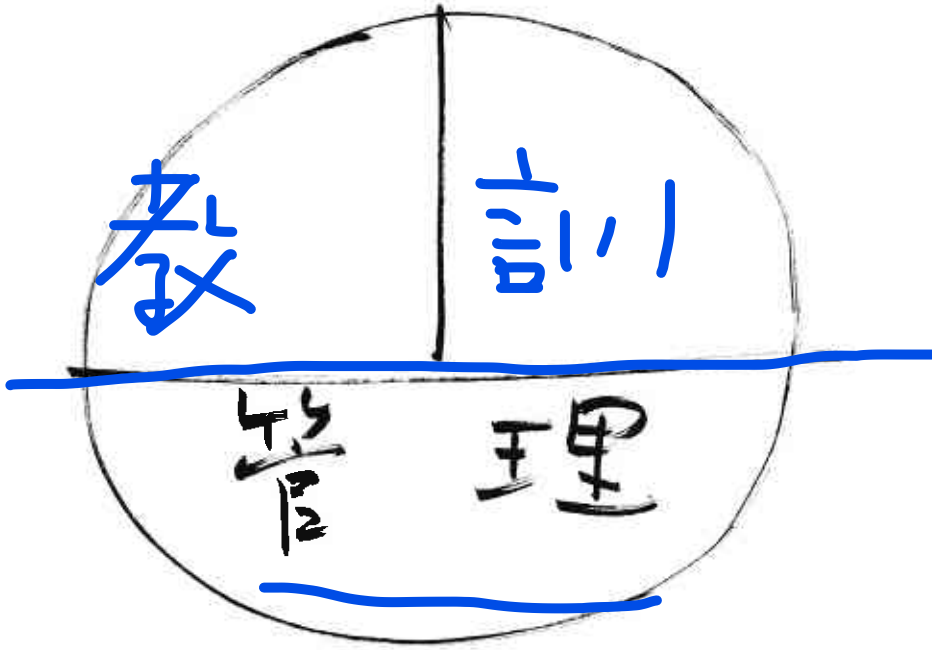


図7-1 ヘルバルトの教育的教授の体系



山崎草史の「西洋教育の歴史」第2章 国民教育の興起





教授

— 興味

進行



# 指導案

どう

専心

~~静~~ 明

動 垂

~~心~~  
in

どう

~~因~~ 思  
反省

~~静~~

心

out

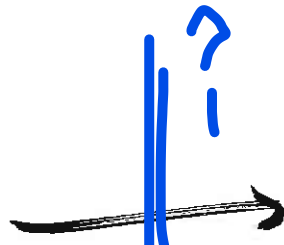
心

心法

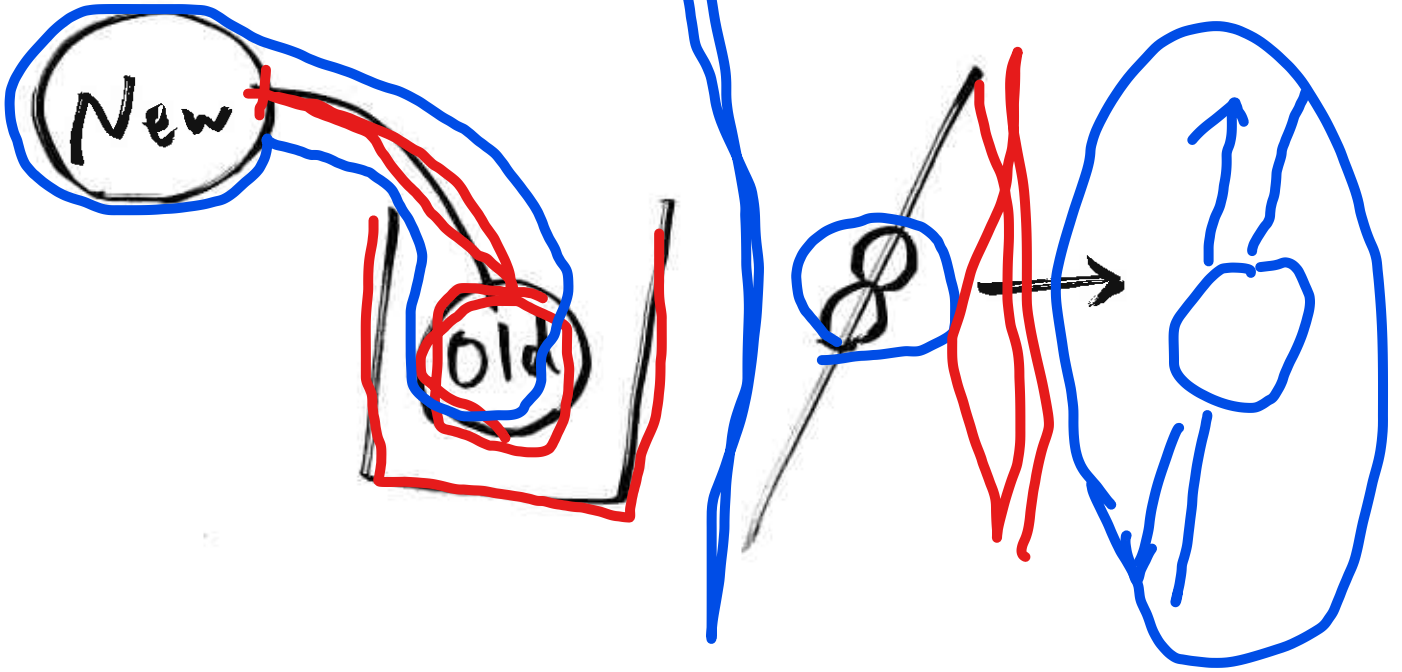
心法



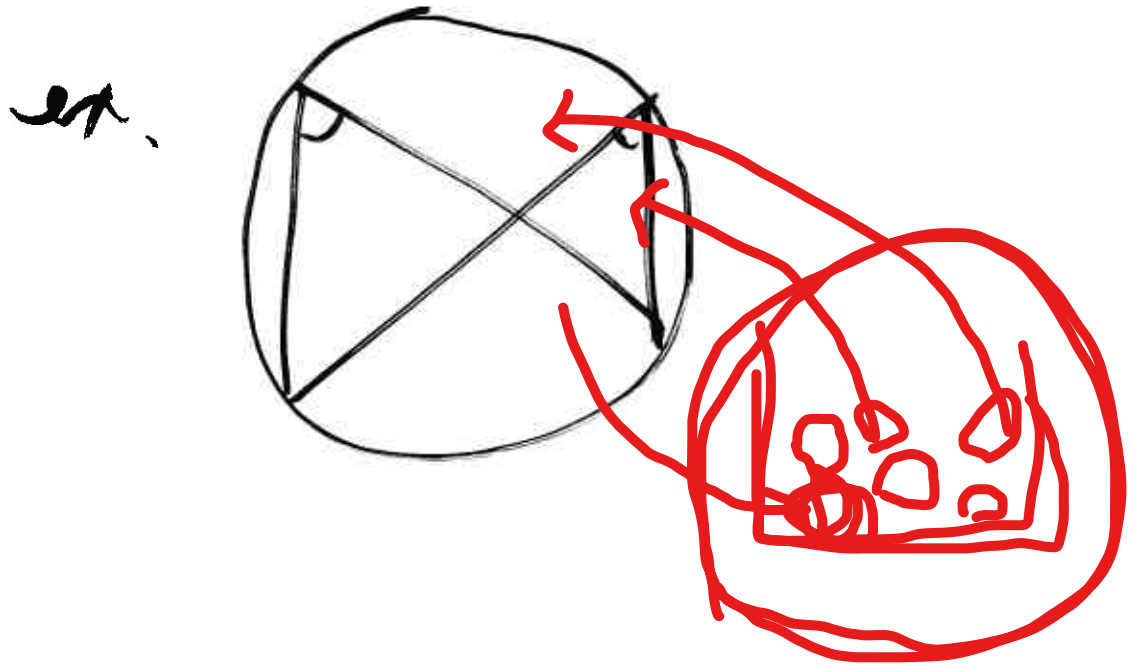
専心



致思  
(反省)



① カビの中 発酵の経路



②

学んだことを  
復説として次へ！

# 第二個教育学

DE

興味・訓練 → Ch. 10

専心 → <sup>オキュペーション</sup> occupation

reflection → Ch. 11, 12

教授法 → Ch. 13

# 大問題

① 求工-ス ↓

② 内在自然 ↓



ヘルバルト学派

单元 (一)

形式段階  
開化

コア

